

ヒラサナエ

トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

Davidius moiwanus taruii Asahina et Inoue

選定理由

産地が限定され、個体数も多くないうえに、開発や伐採による影響が危惧される。

形態

腹長22~32mm、後翅長21~28mmの小型のサナエ。黄色の地に黒条があり、モイワサナエやヒロシマサナエに類似するが、オスは尾部上付器、メスは後頭孔縁の形で区別される。

国内分布

富山県高岡市郊外から小矢部市の低山帯、福井県、滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県にわたり産地が点在するが、多くない。

県内分布

南加賀では記録がないが、金沢市（薬師、宮野、小池）に生息する。能登半島では志賀町（田原、尊保）、中能登町末坂、輪島市三井、穴水町細野、能登町（柏木、中斉）、珠洲市上戸など、各地から知られている。

生態

低山～丘陵の山間の陽地の小流や、湿原の細流の泥底に幼虫が育つ。4月下旬から5月初めに岸辺の草の葉や茎にとり付いて羽化し、成虫は5～6月に活動する。日の当たる流れの傍の植物に静止したり、少し飛んで移動したりしている。卵は空中で産下され、水際の泥土やコケに落ちることが多い。

生息地の条件

幼虫が育つためには、低山帯の、開けた陽地のゆるく流れる泥～砂泥底の小川や、湿原の細流が必要で、廃田の用水溝に見られる場合もある。周囲には、成虫の摂食や休止のための樹林や草原があることも要件。

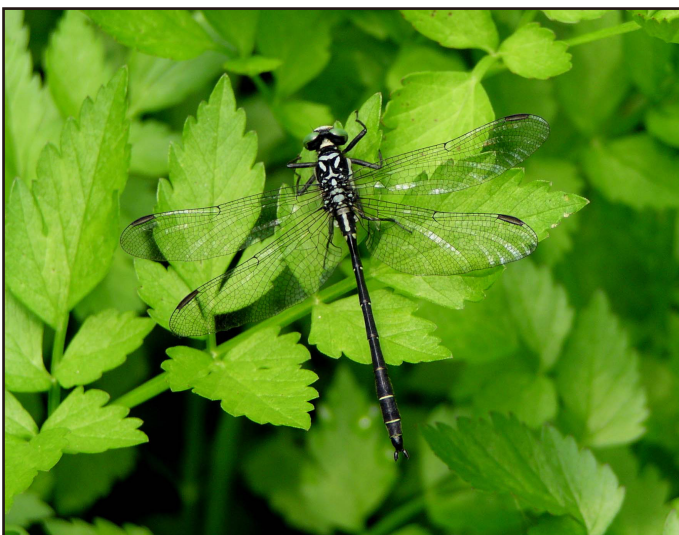
生存の危機

森林の伐採や道路の建設のため、直接的ないし間接的に小流や溝が消失したり、出水時の泥で埋まったり、乾燥化するなどの危険性が高い。白山市口直海の既知産地は、ダム建設により水没し、能登でも開発の影響が危惧される。植林されたスギなどが成長して細流が暗くなると、生息に不適となる。
(A)

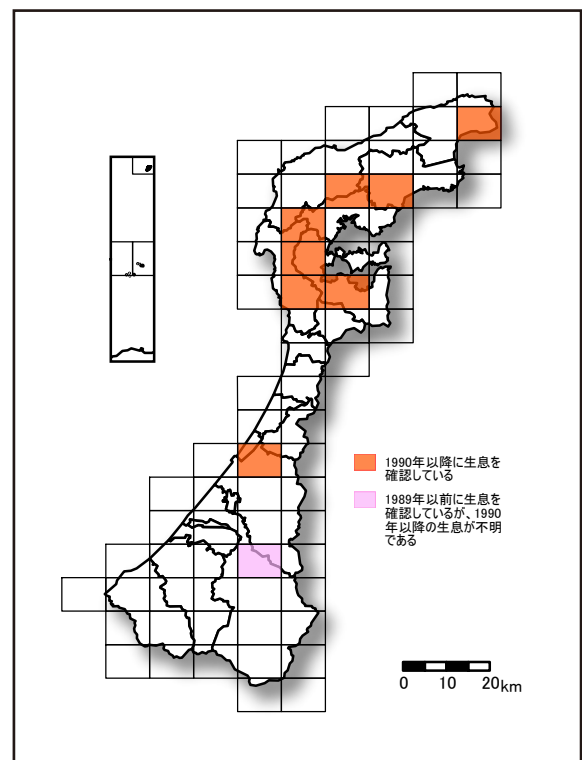
参考文献

江口元章 1991. 能登半島のヒラサナエ. Tombo, 34 : 33-35.

武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見. とっくりばち, (75) : 24-28.



写真提供者：富沢章



県内の分布